

国語プリントNo. ()

年 組 番 名前

片桐の国語授業について

2010年改訂版

年 組 番 名前

ルール・連絡

教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。

(一) 出欠を取る際に、席にいない場合は欠席、欠課、遅刻。

(二) 遅れた場合は、自分で理由と共に申し出る。こと。申し出てこない場合は、欠席となる。座席表通りに着席すること。

(三) 空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わらない。

授業で毎時間用意するものは、教科書・A4ファイル・原稿用紙ノート・筆記用具（黒ペン・赤ペン必要）国語辞典・10分読書の本。

(四) 国語を学習する上で、言葉の意味を確認することは非常に重要なことです。解らない語がある場合はすぐに調べられるような用意をして下さい。

(五) 授業前に用意しておくこと。忘れた場合は、忘れ物回数に数えられる。

配布プリントを閉じる A4 ファイルを常に準備すること。

(六) これから、たくさんプリントを配るので、それをなくさないように保管するファイルが必要です。ファイルすることで自分の学習の積み重ね（知識の集積）となる。

(七) 定期的なチェックをして評価をする。

(八) 整理の仕方は単元ごとにまとめ、その単元内でのプリント番号順とする。（配った日付順、プリント順にならないこともあるので注意すること。後日指導します。）

(九) B4 プリントの折り方は、半分に折ってさらに4分の1に折る。指定通りでない場合は再提出となります。（末ページに図解あり）

(一〇) 配布プリントは、無くした場合、再配布

しません。（各自コピーをする。）

(一一) 欠席、公欠などの場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに自分で取りに来ること。

また、教務室に取りに来ること。ただし、もらいに来るのが遅いとプリントが無くなっている渡せなくなる場合があります。原稿用紙ノートが必要です。

(一二) 全て使い切ったら同じものを各自購入す

配布日 月 日 曜

るか、片桐から購入すること。（120円）
(一三) 指定ノート以外の課題提出は評価しません。

課題は必ず指示された形式で作業を行うこと。

(一四) 話をよく聞いて、どのように作業をすればいいの考えること。

(一五) 課題の説明で話したことと同じ事は質問されても答ええない。聞き逃した場合、周りの人に聞くこと。

(一六) 文字の形、濃さ、表現の内容によって伝わりにくい場合は再提出となる。

小テストを適宜行う。

授業とは集団で行われる学習行為である。どうして隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考えること。

(一七) 始業・終業の礼は厳粛なものである。

(一八) 各自授業中に話していい時と話してはいけない時を判断すること（空気を読むこと）。

(一九) 私語・居眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

(二〇) 飲食・内職は、完全に学習不参加である。

(二一) その時間に教室に入っても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまいません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだったら、何でもおこないます。

片桐は基本的に教務室にいます。

以上のことで不都合がある場合、合議の上改訂できます。

皆さんの表現作品を、上で公開することがあります。そのときにはプライバシーに配慮して掲載しますのでご了承ください。

課題の種類

「個人課題」……個人ごとに合格を目指す。

「グループ課題」……グループで1つ、またはグループ全員が提出して、グループごとに合格を目指す。

「クラス課題」……クラス全員が提出し、クラス全員が合格することにより評価が得られる。

図表と目標

学校教育の目的……「人格の完成」

国語教育の目標……「日本語の機能を理解し、日本語を適切に使えるようにする。日本語文化の伝承をする。」

自己の中にある専門性（専門教科知識・個性・こだわりなど）は共通言語を使うことにより、一般化し、他者とのつながりを持つことができる。

「学ぶ」ということは、自分の身の回りから吸収するということです。

「勉強する」ということは、高校生レベルでは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということです。

国語はことばを学習する教科です。

ことばの機能

人間が自己や他者、外界物を認識するために必要に迫られて作られたもの。

自己と他者の境界線の一部を取り除き、互いに情報を伝達し、理解できるようにする手段。

強化目標

言葉の影響力を意識できるようになる
伝えることを意識して表現する
テキストにあたる

「目標」が「目的」にならないように気をつける。たとえば、「論理的文章を書くようになる。」が目的で、目標が「この課題を完成させる」であるにもかかわらず、他人の課題を丸写しすることは「目標」が「目的」へとすり替わっていることです。「何のためにやっているのか？」（目的）を常に意識して学習しないと、活動全てが無駄になります。

立派な社会人になるために

相手を幸せにする（期待を上回る）
責任を持つ
誰に・いつ・何を・どのように聞けばいい
のか会得する

期待を上回る「について」

不思議な謎かけ「島田亨

人生の転機に背中を押してくれる友がいると心強い
2004年秋、新球団東北楽天ゴールデンイーグルスの経営に加わってほしいと誘われたとき、「いよいよ

よエンターテインメント産業に進出ですね」と挑戦を進めてくれたのがレックスホールディングスの西山知義会長だった。

年齢が近く、ゴルフや食事に行ったりする間柄。東京都内の焼鳥屋で一杯やりながらの相談だった。その席で不思議な謎かけをされた。「どこかの店で食事をしたりするとき、期待値ってあるじゃないですか。期待値通りならお客さんは満足するでしょうが、それ以上のサービスを受けたらどうなると思います」

私が答えに詰まると、「感動するんです」と教えてくれた。続けて、「期待値をもっと上回るとどうなると思います」と笑みを浮かべながら尋ねてきた。頭をひねっていると、「感謝されるんですよ」。そして「期待を下回ると不満なのは当然ですが、さらに下回ると、お客にとっても、お店にとっても悲劇です」と論してくれた。

エンターテインメントの本質とはこれなんだと気づかされた。プロ野球もエンターテインメント産業。そのときに教えられた「感動」は、球団経営のキーワードになっている。（しまだとある「楽天野球団オーナー」）

日本経済新聞2008.3.22「交遊抄欄」

責任を持つ「について」

先輩の「学んだこと作文」 参照

誰にいつ何をどのように聞けばいいのか会得する「について」

就職試験面接会場のドアにはドアノブがついていないという話

授業の箇条の心得

名前を呼ばれたら三秒以内に返事をする。（0.2秒を推奨）

授業開始・終了のあいさつは頭を上げ、寄りかからずに立つてからおこなう。

持ち物には黒ペンで名前を明記する。

提出課題におけるノート・プリントへの記入は黒のにじまないペンを使う。

課題を書く上で字を間違った場合はホワイトを使ったり、二重線で訂正線を書き、修正する。

ノートにおける新たな課題は、日付、名前を欄外に記入し、新しいページから書き出す。

評価方法

定期考査と授業字の課題を合わせて各学期、学年の成績をつけます。また、授業時の課題の成果を定期考査の点数に組み込むこともします。

ファイル提出合格（クラス課題）も毎回定期考査に組み込むことにします。

先輩の「学んだこと作文」

国語は、ここまで生きる上で役に立つとは思わなかった。最初はせいぜい話して、漢字を覚えればそれで事足りるものだと思っていた。しかし今年度の国語は違った。文章の中から本当に作者が伝えたいことを見つけ出せるようになったし、逆に受け取る相手に伝わりやすい文章を書けるようになった。中でも一番役立つのは他人と協力することだ。小学校、中学校、と何度も何度も積み重ねて聞かされてきたことだが、高校に入ってから国語の授業を受けてから初めて思い知らされた。自分だけが課題をクリアしても周りの人のことにまで気を回さないと課題を完全に終わらせたとはいえない。またクラスの全員がそのような気持ちにならないとクラスの隅々まで課題をクリアしないといけないという空気にならず、結局は誰か一人二人が残ってしまう。社会に出てからは他人と協力することが最も重要だ。このことに高校生の段階で気付いて良かった。人はいろいろな性格があるから、協力が苦手な人もいる。そのような人には自分から積極的に空気を作ってあげることも大切だ。また必ずしも他人と協力する課題ばかりではない。時には一人で静かに課題に取り組むこともある。その人には周りの人も静かにして課題に集中できる空気を作ることが重要だ。これもまた一種の協力で、全員が課題を終わらせることができる。このように、協力して空気を作り出すことは生きる上で役に立つ。

学んだことは、情報の共有化の大切さです。中学の時は、わからないことは調べたりもせずわからないままにしていました。だからテストでも全然できなかったり、日常生活でも自分だけ知らないことがあったりしました。逆に自分が知っていることも、他の人に教えるのが面倒で教えなかったりもしました。高校に入っても一年の時は他の人の意見を聞かないで自分の意見のみを主張していました。二年になって現代文の授業が始まり片桐先生の授業になってから、今までの国語の授業とやり方がガラリと変わりました。まず課題も周りの人と話してやってもいいし、班でやる課題が非常に多くなりました。最初はなんだこれと書いていました。課題の内容も意味がわからなくてとても一人ではやっていけない状況でした。しかし何回かするうちに、班のグループの人たちが自分の意見を言ったりやり方がわかったり、自分の意見や言ったり他の人の手助けをすることができたりしました。こういうことがおきて片桐先生の授業は意見を出し合って問題を解決していくことを学んだとわかりました。情報の共有化の大切さを知らなければ、今までと同じで人の意見を聞かず自分のことだけを主張して、いろいろな考え方を知ることができない状態になっていました。

情報を共有すれば、自分のわからないことや他の考え方があったことを知ることができ、周りとの交流もできるようになります。情報の共有化は非常にいいことだとわかりました。

一番初めクラス全員の机を使って輪を作る時、すぐにできずものすごく遅い記録を出してしまい初日から先生に怒られていて他の人と協力できないのか、などと言われました。一年ほど経ち今ならクラスの人や他の人たちとも協力できるようになり、また机で輪を作るようなことがあっても前のような悪い記録は出ません。先生の授業では良くクラス全員ができれば何点プラスするということが多くあり、クラス全員が合格したくてみんなが教え合ったりして協力していたつもりでしたが、クラス全員が合格できたことはありませんでした。このことを考えると、まだ他人に教えるという部分ではまだ協力することができなかったのです。三つ目は、一人では何もできないということや学びました。一人では何をすればいいのかわかりませんが、また他人が何をしているのかもわかりません。

普段の授業で使った辞書を日常生活の家庭学習で使うようになった。中学三年生の時はわからない漢字やその漢字の意味、語句の使い方があった場合はそのままわからないまま使ったり、平仮名で書いていたが、この授業を何回もこなすごとに辞典を使う習慣を付けることができた。この学校に入ってから国語の授業を受けて最初の頃はひらがなが乱雑でチェックされたり、常用漢字を平仮名で書いてチェックされて結局再提出ばかりしていたがこの課題を越えるために辞典を調べてこなすようになった。雑な字を書いてしまう習慣は変えることが難しく今でも書いてしまいがちだが、辞典を調べることにによって常用漢字や日常生活では使われないような語句も覚えて有効に使えるようになった。次に学んだことは授業を受ける態度である。この学校に入るまでは授業に持参するものを忘れたり、授業中は寝ていたりとかかなり問題的な行動をとっていたが今年の国語の授業は厳しく一度の忘れ物や良くない態度だけで自分の点数がマイナスになってしまふことが多数あり、最初は受けることだけで精一杯だった。だからテストの点数も最初の方はマイナス10点近くも落とされてショックが大きく感じられた。しかし、辞典の内容と同じように授業を乗り越えることに忘れ物は減っていき、国語の授業だけではなく他の教科も寝ることなく受けられるようになった。最初は逃げたくなるくらい嫌な授業でも我慢してこなすことで自分には様々なことがプラスされ成長していくんだと思った。そしてもう一つは、品限の気持ちで考えることである。過去の自分は常に己のことしか考えることができていづつも一人で行動をとってしまっていた。

一点目は字をきれいに書くことだ。今までは、自分がわかればいいと思っていたし、提出物も、とりあえず出せば良かった。だが自分がわかって、読む人に伝わらなければ何の意味もないということに気づいた。

二点目は、漢字を使うということだ。どんなに字をきれいに書いても、平仮名ばかりではとても読みづらいし、社会に出たときに漢字が書けないようでは、まわりから浮いてしまうし、恥ずかしい思いをしてしまう。字をきれいに書き、漢字を使うことが大事なことだ。

三点目は、まわりの人に迷惑をかけることだ。先生の授業には、クラス全員が成功して、何点かもらえる課題や、グループ全員が成功しなければいけない課題がある。その時にまわりの人がやる気を出して頑張っても、一人でも、出さない人がいたら、それだけで失敗になってしまう。最初は「なんか厳しいルールだな」、「あいつとは関係ないから、俺だけ点数をもらえればいい」と思っていたが、それは間違っているし、社会に出れば全部連帯責任なんだから、今、しっかりやっておかなければいけないことだ。人の責任をとれるようになって初めて一人前になる。その前に人に迷惑をかけるようにしておかなければいけない。

四点目は、問題をしっかりと読むということだ。テストの時に問題をあまり読まず、できる問題を間違ってしまうことがある。これは、学校だから、何とかなっているが、会社でこんなことになってしまえば大変なことになってしまう。重要な書類を読むときにミスをしてしまえばとてもないことになってしまう。まずしっかりと文章を読んでから始めることが大切だ。

五点目は、再提出だ。自分はよく再提出になつてしまい、それで出すのをやめてしまうが、先生の授業ではその悪いところもおすことができた。

常用漢字の練習についてです。僕は小さい頃から全く漢字を勉強してきませんでした。漢字練習もただただノートに書くだけでした。しかし現代文の授業で常用漢字を書くようになり少しずつではあります。漢字を書くようになりました。他のノートにも漢字が多くなってきたのもよく分かるようになりました。漢字の話にも関係してくるのですが、現代文の授業の始めの「読書」もそうです。漢字が嫌いなので本も難しい漢字が出てくるとその場面の感じから読み取ったり、読むのを止めてしまいます。しかし漢字を練習してから本をスムーズに読めるようになりました。しかも、本は漢字だけでなく「文章を読み取る力」も備わっています。今までマンガ本しか読んだことのない僕が、本を楽しく読もうというのは「生きる上で役にたつ」ことです。

今度は文章を読み取る力がつく文章を「書く力」も付いてきます。本を読み、ある程度の構造が分かるとあとは基本的なことが分かれば作文が

書けるようになりました。まだ完全とはいきませんが少しずつ僕の文章力は上がっています。

文章が書けるようになると今度は人に見せて分かるようにしないといけません。作文なので人に見せなくてはならないと思っています。そこで現代文ならではの「ボールペン」です。僕はボールペンが苦手であり使ったことがありませんでした。字はすぐに消えないし大変だからです。でも将来どこかの会社と何かするときは全てボールペンでやるので、今のうちにボールペンで書くということはとても大事なことです。そうすると自然にきれいな字で書くという意識が出てきて、相手にも分かりやすく、自分も分かりやすい文章ができるようになります。僕は今この作文を書いていて全て繋がっているのだと思いました。漢字を練習して書けるようになったら本を読み、本を読んだら文章を書いて、文章を書いたら文章をさらに読みやすいようにする。この一つ一つが僕にとってとても大事なものだと思っています。どれか一つが欠けてもいけません。この作文に書いた文章全てが僕にとって「生きる上で役にたつ」ことだと思っています。

提出日を守ることと提出することの責任の重さだ。中学の頃はノートを出さないと先生が「今日中に出さない」となど声をかけてくれ、それまでは出さなくていいと考えていた。でも、高校は出さないと容赦なく点を引かれてしまい、下手するとクラスみんなの点まで引かれるということもあり、提出するということは責任もあるということを学んだ。また、クラス全員が提出しないといけない課題は、何日までに出さなければいけない、合格しなければいけないという、プレッシャーもあり、すごく真剣に取り組み、提出することができた。

